

先日、南河内の里山を歩いていると...

道端の草の茎に、体長は15mmほどの、何やら硬そうな虫がとまっていました。
ゾウのような長い鼻はありませんが、「ゾウムシ」の仲間だろうと思いました。

動作は非常にスローな感じなのですが、きっと硬い上翅が天敵の野鳥から身を守ってくれるので、そう慌てることもないのでしょうか... 体色も鳥の糞に似てなくもないですし...

接写しようとカメラを近づけると...

こちらの気配を察したのでしょうか、脱力してポトリと落ちてしまいました。

でも...

そのまま地面まで落ちずに、すぐ下の葉っぱの上に、ちょうど“仰向け”の姿勢で引っかかったのです。

そしてそのまま、微動だにしなくなったのです！

もちろん気を失ったわけではなく、死んだわけでもありません。

これがこの虫の秘技である「擬死」なのです。わかりやすく言えば“死んだふりです”...

いったい何時まで“死んだふり”をしているのか、根気よく待つことにしました。

3分ほど待たせようか、

まずは左右の足をしきりに動かし始めました。

どこかに足が引っかからないかと探っているようです。

やがて、側の葉の縁に足がかかり、うまく回転しながら起き上がることに成功しました。

2分以上かけての“重労働”のように見えました。

でもこの虫...

羽を使って空を飛べるんですけど...

何故か、飛んで逃げることはせずに、頑なに“死んだふり”作戦を採用して逃げ切ろうと考えているようですね。

図鑑で調べてみると、「シロコブゾウムシ」という名前でした。

写真 : シロコブゾウムシ

見つけたときの様子です。

写真 ・ : 擬死

こちらの気配を察して、必殺“死んだふり”...

この状態で3分ほど、ピクリとも動きませんでした。

写真 ~ : 擬死からの復帰

苦労して、“仰向け”の状態から回転しました。

写真 : 今度は擬態...?

しばらくして再び戻ってみると...

前脚と触角を真っ直ぐに伸ばして、じっとしていました。

今度は、鳥の糞に「擬態」しているのかも知れません。

何とも“擬”の好きな虫ですね...

























